

平成28年度

## 茅野市議会経済建設委員会研修視察報告書

(経済建設委員会 特定事件継続調査報告書)

研修期日：平成28年10月11日(火)、12日(水)、13日(木)

- 調査対象：Ⅰ 北海道剣淵町  
『絵本によるまちづくりについて』
- Ⅱ 北海道旭川市  
『まちなか交流館について』
- Ⅲ 北海道東川町  
『株主制度について』  
『移住・定住事業について』

参加委員： 委員長 伊藤 勝  
副委員長 丸茂 岳人  
委員 両角 秀喜  
委員 樋口 敏之  
委員 篠原 啓郎  
委員 山岸 正衛

市随行者： 都市建設部長 両角 直文  
議会事務局主査 田中 美和

## I 調査先 北海道剣淵町

### 1 調査項目 『絵本によるまちづくりについて』

対応者 剣淵町長 早坂 純夫 氏  
町づくり観光課 課長 宍戸 敏彦 氏  
教育委員会 教育課 絵本の館館長代理 係長 佐藤 宏樹氏  
剣淵町議会 議長 大河 邦晃 氏  
議会事務局 鴻野 彩子 氏

### 2 調査期日 平成28年10月11日（火）午後2時30分～4時30分

### 3 市の概要（平成28年9月末日現在）

人口：3,335人 世帯数：1,525世帯  
行政面積 130.99km<sup>2</sup>

剣淵町は屯田兵による農業開拓地であり、耕作規模は30～40町歩／1世帯、山林面積は3割弱を有し、土質は泥炭地質（古代には湖であったと推測）の低広陵地帯。

### 4 調査の目的

剣淵町は、絵本の里として絵本を中心とした様々な取組を行っている。その活動は、28年間続いており、全国から注目されている。

これらの取組を視察し、茅野市のまちづくりの参考としたい。

### 5 調査内容

剣淵町役場において、大河議長及び早坂剣淵町長より歓迎の挨拶をいただき、その後、町づくり観光課長宍戸氏及び教育委員会教育課係長佐藤氏より事業について説明を受けた。

事業の説明を受けた後、絵本の館に赴き、絵本の館の視察を行った。

## 概要

### (1) 絵本の里(絵本の館)設立に至るまでの経緯

- ・昭和63年に銅版画家小池暢子氏の講演会において「小さな農業の町らしい文化のまちづくりをしませんか。」と提案された。  
また、松井友氏より「絵本を使ったまちづくりから、世界の人々との交流が生まれる。」とアドバイスされる。  
同年、町民有志による「けんぶち絵本の里を創ろう会」が結成され、活動を開始する。(創立時の会員数は300名、現会員数95名。)
- ・地域に根ざす個性的な地域文化を育むために「絵本の里づくり」が展開され、交流の場として平成3年「絵本の館」が開館する。現在は平成16年に新築移転した。
- ・平成3年「絵本の里大賞」を開催。来館者投票による選考。  
当初の応募数：142点  
平成28年26回目：340点  
館の人気イベントとなっている。
- ・平成24年 映画「じんじん」撮影開始。「絵本の里づくり」に感銘した俳優大地康雄氏の企画により、この剣淵町を舞台として撮影が始まる。

### (2) 絵本の館 運営状況について

- ・「絵本の館」施設は教育委員会で運営管理。  
運営費は町の予算(一般会計)から歳出。
- ・総予算：2,900万円/年  
施設運営費・管理費・人件費・書籍購入費・委託料など

#### 【連携団体】

##### ①絵本の里を創ろう会

予算377万円(うち町補助金 165万円)

事業内容：絵本原画展・工作教室・出版社作家交流会

##### ②絵本の里づくり実行委員会

予算483万円(うち町補助金 394万円)

事業内容：絵本の里大賞・絵本まつりの管理運営

大賞金：50万

副賞：農産物を3年間贈呈する制度となっている。

### (3) 絵本の館 地域貢献への取組について

- ・読み聞かせ活動：絵本の館にて第1・第2土曜日開催。また、保育所、小学校、特別養護老人施設、グループホーム、各イベント等において随時開催する。
- ・読み聞かせは、庁舎職員が行い、5名が常時待機している。
- ・出産記念品として「君の椅子、絵本、誕生カード」を贈呈している。
- ・絵のある建物：保育所・小学校において、絵本作家の絵を壁画として用いている。

### (4) 人口減少問題の課題と今後の取組について

- ・人口推移：昭和30年9月、334人をピークに、以降減少傾向にある。  
近年では、平成28年9月末日で3,335人。ピーク時の4割以下に減少した。

#### 人口減少の要因として

- ①高度経済成長期において、日本の工業化政策の影響から都市部への人口流出が進んだ。
- ②昭和46年から本格的に始まった米の生産調整（減反）により、農業就業者人口が著しく減少した。
- ③死亡数が出生数を上回る「死亡超過」傾向にある。また、平成22年以降は転出が転入を上回る「転出超過」が進んでいる。
- ④出生率が1.18と全国近隣市町村と比べ低い。  
(全国：1.38 北海道：1.25)

### (5) 「剣淵町総合戦略」策定について（平成27年10月策定）

人口の著しい減少は、地域産業の衰退、コミュニティ機能の低下につながり、社会保障費の負担増や税収の減少など厳しい状態をもたらすと考えられる。このため、今後の減少対策や、少子化、高齢化を抑制する「剣淵町総合戦略」が策定された。

### (6) 「剣淵町総合戦略」について

#### ①目標人口

平成32年時点で、総人口：3,000人維持を目指す。

#### ②基本目標：「絵本の里まちづくり」と「広域的な連携」を重視する。

## (7)「劍淵町総合戦略」取り組む内容 =交流人口増加と移住定住促進策=

### ■基本目標1：地域の産業や魅力を活かし、働く場所を増やす

- ・ 基幹産業の農業・商工業を支える人を応援する。
- ・ 6次産業化・新産業の創出により、雇用の拡大を進める。
- ・ 劍淵高校と連携を図り、地元定着型就業を進める。

### ■基本目標2：地域の魅力と発信力を高め、町に訪れる人を増やす

- ※「絵本の里けんぶち」をさらに広げた、交流人口増加、移住・定住促進策。
- ・ 絵本にちなんだイベントや企画の実施と情報発信：絵本の里大賞の充実。
- ・ 地元絵本作家の創出・絵本を職業とする仕事づくり：地域おこし協力隊の活用。
- ・ 絵本の館の機能向上：映画鑑賞・住民の作品展。
- ・ 絵本の里を次世代につなげる人づくり：町への愛着心・郷土愛を育む活動。
- ・ 道の駅の利便性向上と売上増加：決済機能の簡素化、商品の充実化。
- ・ 道の駅と横を走る高速道路間にパーキングエリア整備：ハイウェイオアシス化。
- ・ 若者などに出会いの場を設け、交流の機会をつくる：婚活パーティー等。
- ・ 移住を促す情報発信：IUJターン者向け支援 最大2年間2万円/月奨励金支給。

### ■基本目標3：住みやすい・住んでみたい暮らしの場にする

- ・ 子育て世代への負担軽減：出産支援・生活支援。
- ・ 幼少中高が連携したふるさとづくりの推進：地域への愛着や誇りを持つ心の育成。
- ・ 若者・移住者向けの住宅・宅地整備：空き家・空き地の有効活用へつなげる。
- ・ 医療・福祉体制の強化：士別市との連携による救急体制強化・有償ボランティア育成・見守りたい支援・健康寿命をのばす取組など。
- ・ 地場農産物の地産地消推進。
- ・ 障がい者とともに生活・社会活動を支援する：絵本の里の運営に参加してもらう。

## (8) 近隣市町村との連携について

### ①「北・北海道中央圏域定住自立圏」の推進

2市9町2村で「福祉」「教育」「医療」「保険」の面から広域連携を進めてゆく。

### ②「君の椅子広域連携実行委員会」の連携強化と「君の椅子プロジェクト」と連携した子育て支援の充実と情報発信

君の椅子プロジェクトとは、新しい生命に感謝をし、椅子をプレゼントする企画。

君の椅子広域連携実行委員会は、北海道東川町・剣淵町・愛別町・東神楽町・中川町・長野県売木村 5町1村で組織する。「君の椅子プロジェクト」により出生時に椅子をプレゼントする。1脚3万円程度。

当初は旭川市で生まれた事業だったが、旭川市においては出生数が高く、年間経費が5千万円から6千万円かかるため、実施が不可能となった。そこで『小さいまちだからこそできる取組』として取組んでいる。

## (9) 近隣市町村との合併について

平成15年合併協議会を設立し、隣接の和寒町との2町村合併を検討した。市街地が12キロメートルほど離れているため、合併は困難と判断された。当時は個々の優位性を保ちながら運営を続けてゆく選択をした。基金を使い果たし、運営が厳しくなったときは、再検討すると思われる。合併には大きなリスクを伴うため、制度を含め権利や権限等の調整が難しい。合併が理想郷づくりになってはいけないと考えている。

## 質 疑

### 1 絵本によるまちづくりについて

問1：絵本の里（絵本の館）と行政はどのように連携していますか。

答：「活動の主体は住民によるもの」と考え、主に活動拠点の整備（新・旧の絵本の館、絵本原画収蔵館）を行い、併せて、補助金により会の活動を全面的に支援し、活動を推進している。

問2：絵本によるまちづくりからどのような経済効果がありますか。

答：「けんぶち絵本の里大賞」などの副賞には、剣淵産のおいしい農産物など

が贈られ、町の農産物のアピールに繋がっている。また、「けんぶち絵本の里大賞」により、絵本の里剣淵町の知名度が上がっている。

問3：絵本の里（絵本の館）はどのように運営されていますか。

答）：「けんぶち絵本の里を創ろう会」のメンバーがメイン事業（「絵本の里大賞」、「絵本まつり」など）の企画をはじめ、事業の運営を中心的に行っているが、他に仕事を持っていることから、これらの対応には限界があり、現在では、長期間の事業は高校生から高齢者まで多くの方がボランティアとして活動している。

町では、「絵本の館」を通じての福祉・教育施策にも力を入れており、今後も、町民の協働のもと絵本の里づくりを進めていく。

## 2 絵本によるまちづくりと地域活性化の取組について

問1：人口減少問題についてどのような対策をお考えですか。

答）：剣淵町の総人口は、昭和30年をピークに減少が続いており、平成52年には、現在の6割以下の2,058人になると推計される。今後の減少対策として、平成27年10月に「剣淵町総合戦略」を策定した。この中で基本目標として、「地域の魅力と情報発信力を高め、町に訪れる人を増やす」と定め、「絵本の里けんぶち」として情報発信し、地域の活性化、交流人口の拡大、移住の促進、雇用に拡大に繋げていく。

問2：交流人口増加のためどのような取組をされていますか。

答）：「剣淵町総合戦略」の基本目標として、「地域の魅力と情報発信力を高め、町に訪れる人を増やす」と定めている。施策として、「絵本の里けんぶち」をさらに広げ、観光・交流や移住を促進する。具体的な取組としては、絵本にちなんだイベントや企画の実施、絵本の館の機能向上として、映画鑑賞ができる機能を持たせるなどを考えている。また、年間53万人が訪れる道の駅の魅力を高め、観光や交流、町のPRに活かす。

問3：移住・定住促進事業についてどのような取組をされていますか。

答）：「剣淵町総合戦略」の一環として、子育て、教育の場としての魅力的なまちづくりを進める。また、だれもが住みやすい環境をつくる。具体的に

は、若い方や移住者向けの住宅、宅地の整備を行う。また、医療・福祉体制の強化と充実を図るため、士別市と連携していく。剣淵町を含む2市9町2村による広域連携として、「北・北海道中央圏域定住自立圏」の推進を行う。

問4：絵本によるまちづくりを近隣市町村と連携し進めていくようなことはお考えでしょうか。

答)：絵本によるまちづくりという考えではないが、近隣市町村の連携として、剣淵町を含む2市9町2村により、「北・北海道中央圏域定住自立圏」の推進を行う。

問5：まちづくりを進めていく中で、近隣市町村との合併はお考えでしょうか。また、合併のメリットやデメリットについてどのようにお考えでしょうか。

答)：平成18年に和寒町との間で合併の話が出たが、合併には至らなかった。現在は近隣市町村との合併の話はない。

問6：地域コミュニティのつくり方について、ご教示ください。

答)：従来の14行政区を平成17年に11自治会に再編成した。河・道路を境に再編。戸数的に行政区間で人口格差(数十倍の開き)があるが、昔からの人のつながりやまとまりを守るため、11地区に集約配置をした。限界集落に近い面もあり、職員の負担を軽減するため、組織を自治会に変えた。その際、各自治会に“地域安全部長”のポストを作り、地域防災の要とした。

問7：6次産業化への取組についてお聞かせください

答)：6次産業化は遅れている。婦人会の取組においても新たな発展はない。農業後継者が集まった『ビバマルシェ』（多品種農産物を扱う軽トラ市のこと。若者がスタイリッシュな服装で販売する。）が動き出している。生産者と消費者間交流が生まれ、消費者不安を拭うことができる。農産物を自信をもって販売できる喜びや生き甲斐へとつながっている。

### 3 「絵本の館」について

問1：「絵本の里大賞」の出品作品をどのように募っているのですか。

答)：絵本を作っている作家からの応募もありますが、出版社を通しての応募とさせていただいている。前年度に出版された作品のみ応募対象となっている。

問2：大賞作品を基に、絵本で販売利益を得ているのですか。

答)：役場として販売はしていないが、販売利益は「絵本の里を創ろう会」の運営費に活用させて載っている。

問3：絵本の著作権は、出版社にあると思いますが、絵本の販売利益はどのようにして得られているのですか。

答)：毎年40社ほど出版社を回り、購入販売の許しを得ている。また、「絵本の里大賞」は一人2冊で応募して載き、最終的に寄贈品として載っている。

問4：『剣淵町をイメージした絵本』を出版されていますか。

答)：『剣淵町ふるさと絵本』という本があり、それを出版会社に依頼して製造販売している。

### 6 茅野市での展開の可能性

剣淵町は人口規模3,300人、一般予算35億円の小さな町であり、また旭川市から50キロ離れている位置にあるため、過疎化が顕著に表れている。

人口はピーク時の約3分の1に減少しており、若者が少なく出生率も低いことから、今後は存続が危ぶまれる可能性もあると推測される。

そのような状況下、剣淵町は独自の文化を発信していく施策として絵本を使ったまちづくりを進めている。この取組は町民の文化創造や子どもの教育という観点で大きな役割を發揮している。

剣淵町は、農産物の生産地という色合いが強く、近隣市町村と比べ目立った観光的特色もなく、都市部からも離れているため、この絵本の町の取組だけで地域おこしが可能か否かは疑問も残るが、この取組により住民の郷土愛を育むことで、同町への移住者や観光客を増やしていくきっかけとなっていく可能性はあると感じた。

茅野市においても、現在、地域活性化のため様々な取組を行っている。

茅野市と剣淵町では、人口規模や立地条件が大きく異なり、茅野市において、新たに剣淵町と同様の取組を行うことが、根本的な地域おこしにつながるか難しい部

分もあると思われるが、市民にとってメリットがある絵本を使った取組ができるのか検討していきたい。

具体的には絵本を使った縄文文化の発信、読み一む i n 茅野の更なる推進、地区子ども館、学童クラブ等への絵本の配布等、検討してみたい。



剣淵町視察(剣淵町役場)  
(伊藤委員長挨拶)



剣淵町視察 (剣淵町役場)  
(丸茂副委員長お礼の挨拶)



絵本の館視察



絵本の館 館内

## 調査先 北海道旭川市

### 1 調査項目 『まちなか交流館について』

対応者 旭川まちなかマネジメント協議会 参事 平塚 清隆 氏  
旭川市 経済観光部 観光課 白木 義宏 氏  
旭川市 経済観光部 経済交流課 主査 坂本 竜太 氏  
旭川市議会事務局 総務調査課 書記 鈴木 賢司 氏

### 2 調査期日 平成28年10月12日（水）午後14時～16時

### 3 市の概要（平成28年10月1日現在）

人口：339,797人 世帯数：176,138世帯  
行政面積 747.66km<sup>2</sup>

### 4 調査の目的

まちなか交流館における地域発展のための貢献や、観光客や移住・定住者に対する役割、また、その利用状況及び方法についてお聞きし、旭川市の観光状況やインバウンド対策等にどのような役割を担っているのか調査を行った。

### 5 調査内容

初めに「まちなかつァー」を行い、旭川まちなかマネジメント協議会参事平塚清隆氏より、旭川の中心部である「平和通買物公園」やその周辺をご案内いただき、商店街や旭川の歴史についてお話をお聞きした。その後、まちなか交流館において、担当者よりまちなか交流館及び旭川市の観光振興への取組について説明を受けた。

※「まちなかつァー」とは、旭川まちなかマネジメント協議会が中心となり、旭川の中心市街地に訪れる人を増やすための取組。観光客も申し込みができ、平和通買物公園の歴史を写真や解説で振り返える。所要時間は1時間程度。距離は約1キロメートル。参加料は無料。



まちなかつァー参加（後方の建物は旭川駅）

旭川の歴史について説明を受ける。

## 概要

### 1 まちなか交流館について

#### (1) 設置の背景について

平和通買物公園は、旭川駅から8条通までを結ぶ約1キロメートルの恒久的歩行者専用道路である。

平和通買物公園は、旭川市の中心市街地における中心軸として発展してきたが、車社会の進展とともに郊外への大規模ショッピングモールの出店や、中心市街地における大規模店の郊外への移転等による影響で、近年は、通行量が減少し、空き店舗が増加した。このような中、再度、平和通買物公園を中心とした賑わい創出を図るため、人・もの・情報の交流拠点として、平成22年7月にまちなか交流館が設置された。

まちなか交流館は、中心市街地活性化計画に基づいて設置され、商店街の活性化及び市民と観光客の交流の拠点となっている。旬のイベント、おいしい店の紹介、地場産品の紹介など行っている。子育て相談、待ち合わせや休憩など、誰もが気軽に立ち寄れる場所である。

#### (2) 運営について

市、商工会議所、各商店街等商業関係者や、中心市街地で活動する市民団体等、17団体で構成する、旭川まちなかマネジメント協議会が管理運営業務を行っている。旭川フードテラス2階の空きスペースを活用している。

- ・空き店舗に出店する場合は補助金を出している。家賃の3分の1で、上限10万円。12か月まで補助する。
- ・まちなか交流館運営への旭川市負担金（主にオープンカフェや、朝市などへ補助）  
平成26年度 3,700万円  
平成27年度 4,080万円  
平成28年度 3,830万円

#### (3) 利用状況について

- ・地域住民の利用数 1年間で22,487人
- ・駅から徒歩10分程度の場所にあり、観光客は必ずしも利用しやすい状況になく、主に地域住民の交流拠点となっている。

#### (4) 施設の機能について

##### ■まちなかマネジメント協議会事務局

中心市街地におけるイベントの企画・開催、イベント開催支援の相談窓口。

##### ■交流館ショップ

加工品や工芸品など地場製品の販売及び情報発信を実施している。

##### ■ワンデイシェフカフェ「サニー」

交流館内にあり「食」の安心・安全と地産地消をモットーに、料理自慢の主婦や学生さん、農家のお母さん、腕に覚えのあるシニアなど、市民が日替わりシェフになり、こだわりの料理をご提供している。また、食をテーマとした各種イベントを実施している。

##### ■チャレンジショップ

創業希望者が実験的に営業を体験できるスペースを提供する。3か月から6か月間、試験営業ができる。

##### ■旭川総合観光情報センター

旭川市観光課、旭川観光コンベンション協会の事務室も隣接させて、行政と民間の機能を補完しあうことで、よりきめ細かい観光情報を提供している。

#### (5) まちなか回遊の取組「まちなかつアー」

中心市街地に訪れる人を増やす、中心市街地に住む人を増やす、観光客の来街を促進する、の3つを目的として、「旭川大雪観光文化検定1級」保有者の「まちなか案内人」が旭川の中心部である「平和通買物公園」の案内を行う。参加者は、旭川の歴史や文化など知ることができる。対象は、旭川市民及び観光客。参加費は無料。

## 2 観光について

### (1) 観光入込客数について

観光入込客数

年 度	年間入込客数	対前年度比
平成25年度	5,333,200人	92.5%
平成26年度	5,350,000人	100.3%
平成27年度	5,530,000人	103.4%

## (2) 宿泊延数について

### 宿泊延数

年 度	年間宿泊数	対前年度比
平成25年度	686,500泊	109.2%
平成26年度	744,400泊	108.4%
平成27年度	807,200泊	108.4%

## (3) 外国人宿泊延数について

### 宿泊延数

年 度	年間宿泊数	対前年度比
平成25年度	48,667泊	155.9%
平成26年度	86,202泊	177.1%
平成27年度	152,182泊	176.5%

## (4) 観光入込客数及び宿泊延数の増加について（特徴）

平成27年度は、観光入込客数、宿泊延数、外国人宿泊延数のいずれも前年度を上回った。

北彩都ガーデンのグランドオープンなどの新たな観光要素が加わったことや、北海道ガーデンショーの開催及び北の恵み食べマルシェ、旭川冬まつりなどのイベント来場者数の増加に加え、新設ホテルの開業に伴い、ハイシーズンにおける宿泊需要に対応できたことなどが主な増加要因である。

外国人宿泊延数は、対前年度比176.5%で前年度とほぼ同等の伸び率となり、2年連続で過去最高を更新した。国・地域別では、平成26年度末に春秋航空が旭川空港に国際定期便を就航したことが大きく影響し、中国が倍増したほか、誘致活動を行っている東アジア、東南アジア各国からの観光客が堅調な伸びを示す結果となった。

### 平成27年度 国（地域）別 宿泊延数

	国（地域）	宿泊数	前年度宿泊数	対前年度比
1位	中国	63,506泊	27,610泊	230.0%
2位	台湾	26,775泊	18,128泊	147.7%
3位	香港	15,171泊	10,263泊	147.8%
4位	タイ	12,318泊	6,852泊	179.8%
5位	シンガポール	10,150泊	7,449泊	136.3%

## (5) 観光予算と行政取り組み

予算規模は、約1億8千万。旭川空港に海外からの直行便があり、利便性が高いため、インバウンドへの期待も高く、そのためのインフラ整備も進んでいる。

### 質 疑

#### 1 まちなか交流館について

問1：まちなか交流館の役割についてご教示ください。

答)：平和通買物公園を中心とした賑わいを創出することを目的としている。市民の学習・交流の場など、人・もの・情報の交流拠点となっている。

併設している「観光情報センター」では、観光客に対する情報発信や飲食店・交通機関など案内をしている。また、「交流館ショップ」は地場産品や産業の情報発信やPRの拠点としている。

問2：市などからの補助金の額についてご教示ください。

答)：旭川まちなかマネジメント協議会に対して補助金を交付している。

平成26年度は、3,700万円、平成27年度は、4,080万円、平成28年度は、3,830万円

問3：まちなか交流館は市民のための情報等も幅広く扱っておられますが、地元住民の利用状況についてご教示ください。

答)：平成27年度の市民の利用は延22,470人である。

問4：まちなか交流館を訪れる観光客数と一人当たりの消費額についてご教示ください。

答)：利用者について、観光客と区別して集計していないが、平成27年度は、「交流館ショップ」の利用者は、4,109人、売り上げは、約523万円。「ワンデイシェフカフェ」の利用者は、14,035人、売り上げは、約840万円である。一人当たりの消費額は、平均すると、「交流館ショップ」は、約1300円、「ワンデイシェフカフェ」は、約600円である。

問5：まちなか交流館では、交通機関などの情報発信をされていますが、市と連携し公共交通に対する取組などもされていますか。

答)：「バスキタ！」の情報を発信している。

「バスキタ！」は、旭川市内で運行しているバス（旭川電気軌道・道北バス）のリアルタイム情報をスマートフォン・携帯電話・パソコンから閲覧することができるサービス。

問6：まちなか交流館において、移住や定住へ向けた情報発信や取組をされていますか。また、空家の情報なども発信されていますか。

答)：特に行っていない。

## 2 旭川市の観光について

問1：貴市を訪れる外国人は年々大幅に増加していますが、観光客数及び受入れのための取組についてご教示ください。

答)：東南アジアなどの海外からの観光客の誘致のため、観光プロモーションを行っている。また、旭川駅及び平和通買物公園に観光情報センターを設置し、最新かつ詳細な観光情報を提供している。その他、外国人観光客向け情報発信や、外国版パンフレットの作成を行っている。

問2：気候や地元資源を活かした観光振興への取組についてご教示ください。

答)：旭川の冬を活かしたイベントを開催している。旭川冬まつり、氷彫刻世界大会等。

## 6 茅野市での展開の可能性

35万人都市の旭川市も地方都市特有の衰退があり、旭川駅前の西武旭川店（西武デパート）の営業が終了するなど、中心市街地の活気は今一つである。

また、朝夜ともに旭川駅前の人通りは少なく、平和通買物公園も閑散としていた。旭川駅周辺においても地方都市独特の車社会の弊害もあり、日常生活での駅利用者も少ないと感じた。駅から続く旭川の中心である平和通買物公園の商店街の活気も今一つであった。これは、平成27年3月に、旭川駅に直結し、イオン旭川駅前店が開店したことも、一つの要因と考えられる。イオン旭川駅前店は大型駐車場も完備していることから、駅前の大通りを挟んだ平和通買物公園の商店街はさらなる衰退が予想される。

まちなか交流館はこうした状況を打破するべく、行政と民間が一体となり、中心市街地に再び活気を取り戻すための取組として活動している。

少ない予算の中でこうした活動が、どれだけ地域活性化に貢献できるかは不透明ながら、少しでもこうした取組をしていかないと、ますます衰退していくことが目に見

えている。視察において、何とか地域を盛り上げていこうとする熱意を感じた。

旭川は国際空港があり、インバウンドの伸び率も高く、期待値は大きいですが、ここに期待するだけでなく、地域住民がまずは商店街を利用し、地域のために貢献していくことに活路を見出そうとしている。

地方都市衰退の抜本的な解決方法はないため、まずは行政と民間が一体となり地道な活動を続けていく以外に地域を活性化する方法はなく、あきらめず取組や仕掛けを実施していくことが大変重要であると改めて認識した。

茅野市においても、中心市街地に再び活気を取り戻すための取組について、引き続き、できることから実行していきたい。

旭川市を視察して改めて感じたことは、茅野市の取組は決して遅れをとっているわけではなく、様々な仕掛けを展開していると思うが、足りないのは住民への展開と協力体制であると感じた。この課題について改めて委員会において議論していく必要がある。



まちなかツアーの様子（平和通買物公園にて  
まちの歴史について説明を受ける。）



まちなか交流館 外観



まちなか交流館視察（伊藤委員長挨拶）



まちなか交流館視察（丸茂副委員長お礼の挨拶）

## 調査先 北海道上川郡東川町

### 1 調査項目 『株主制度について』 『移住・定住事業について』

#### 対応者

東川町議会 議長 高橋 昭典 氏  
東川町議会 副議長 大澤 聰 氏  
東川町 町長 松岡 市郎 氏  
東川町 企画総務課 写真文化首都創生室 主査 柳澤 奨一郎 氏  
東川町 産業振興課長 鬼塚 幹雄 氏  
東川町 定住促進課 住まい室長 藤川 裕充 氏  
東川町 議会事務局長 竹部 修司 氏

### 2 調査期日 平成28年10月13日（木）9時30分から11時30分

### 3 市の概要（平成28年9月末日現在）

人口：8,092人 世帯数：3,669世帯  
行政面積 247.06km<sup>2</sup>

東川町は北海道のほぼ中央部に位置し、旭川市の都心部から15km、旭川空港からは7kmの距離にある。東川町東部は大雪山国立公園の山岳地帯であり、北海道の最高峰「旭岳」を有し雄大な自然環境に恵まれている。

また、地下水に恵まれているため、上水道は無く、豊かな地下水をポンプでくみ上げ飲料水にしている。

### 4 調査の目的

『株主制度について』

ふるさと納税制度の発想を変え、株主制度としている。財政をプラスにすると言うことではなく、町外の方、都市住民の方とのつながり、交流を主体としたまちづくりをしている。これらの手法をお聞きして茅野市としての活用を探る。

## 『移住・定住事業について』

東川町は昭和25年に10,754人いた人口が平成5年度には7,000人を切るまで減少した。平成6年度以降、各種事業を展開することにより、平成26年度には8,000人を突破している。移住・定住に関わる事業等をお聞きし参考にする。

## 5 調査内容

東川町役場において、高橋議長及び松岡町長より歓迎の挨拶をいただき、その後、それぞれ事業について、担当者より説明を受けた。

### 概要

#### 1 株主制度について

企画総務課写真文化首都創生室主査 柳澤氏より説明を受けた。

株主制度は、東川町を応援しようとする方が、東川町への投資（寄付）をすることにより株主となり、まちづくりに参加する制度である。自治体への寄付に該当するため「ふるさと納税」として住民税など税法上の控除を受けることができる。

#### (1) 株主制度の事業体系及び参加の仕組み

- ・東川町を応援する人が、10の社会的投資事業に対して投資（寄付）する。
- ・投資目標を達成した事業は町が実施する。
- ・株主は町内と町外の住人から成る。

町の株主は実施事業に直接参加できる。町外の株主は「特別町民」となる。

どちらの株主にも「株券（株主証）」が交付される。

- ・株主には様々な特典がある。

#### (2) 投資対象事業及び投資目標額（目標金額）

四つのプロジェクトに対して、10の事業がある。

##### 1 写真の町プロジェクト

- |                |                              |
|----------------|------------------------------|
| ①写真の町整備事業      | (目標金額) 2億円 (平成30年12月まで募集)    |
| ②オーナーズハウス建設事業  | (目標金額) 3千万円 (平成31年3月まで募集)    |
| ③写真甲子園映画化事業    | (目標金額) 1億2千万円 (平成29年12月まで募集) |
| ④写真文化首都創成館整備事業 | (目標金額) 10億円 (平成31年3月まで募集)    |

## **2 イイコトプロジェクト**

- ①自然散策路整備事業 (目標金額) 50万円 (毎年の投資額に応じ実施)
- ②ひがしかわワイン事業 (目標金額) 50万円 (毎年の投資額に応じ実施)
- ③医療型観光施設整備事業 (目標金額) 1億円 (平成30年3月まで募集)
- ④織田コレクションアーカイブス事業 (目標金額) 3億円 (平成30年3月まで募集)

## **3 ECOプロジェクト**

- ①水と環境を守る森づくり事業 (目標金額) 50万円 (毎年の投資額に応じ実施)

## **4 こどもプロジェクト**

- ①オリンピック選手育成事業 (目標金額) 500万円 (毎年の投資額に応じ実施)

### **(3) 株主の特典**

#### **◎特典1**

- ・株主全員に「株主証」を贈呈。
- ・町外の株主には「特別町民認定証」も贈呈。

#### **◎特典2**

- ・1万円以上の投資で年6泊まで無料宿泊が可能。

#### **◎特典3 (株主限定企画)**

- ・水と環境を守る森づくり事業に参加。  
植樹や町民との交流ができる。(歓迎昼食会、陶芸等体験)

#### **◎特典4 (株主限定企画)**

- ・ひがしかわ株主ファーム (ふるさと納税制度の対象外)  
東川産米や東川高原野菜を収穫できる農家の協力のもと、株主がオーナーとなる田んぼや農園のこと。オーナー料金は1万5千円コースか1万円コースのどちらかを選択する。

#### **◎特典5 (株主限定企画)**

- ・ひがしかわワイン  
ワイン通信の発行と、ワインの購入(株主のみ)が出来る。

### **(4) 投資の実績**

- ・入金済み延べ人数 14,585人
- ・現在までの投資額 2億7,433万8千円
- ・2016年9月30日現在の投資者数 11,070人

### **(5) 投資実績の推移**

平成20年度から平成25年度までは、徐々に増加した。平成26年に若干

の落ち込みがあったが、平成26年からインターネットでの申し込みが出来るようになり、平成27年度は一挙に増加した。しかしながら、投資の主旨と異なった寄付者が増えた。投資額は、平成26年度は21,187,000円、平成27年度は98,271,000円である。

## (6) 株主数の推移

平成20年は415人であったが、平成26年は3,410人と増えた。  
さらに平成26年からインターネットからの申し込みが可能となり、平成27年は8,000人と急増し、平成28年9月末で11,070人となった。

## 質 疑

### ■株主制度について

問1：株主制度の目的や株主制度を活用したまちづくりの手法についてご教示ください。

答)：東川町ではふるさと納税で財政をプラスにしたいということではなく、町外の方、都市住民の方などとのつながり、交流をメインに考え、東川の未来を共につくることを目的にしている。10の事業に投資してもらう。

## 2 定住・移住事業について

定住促進課住まい室長藤川氏より説明を受けた。

### 概要

#### (1) 上水道の無い町

北海道で唯一上水道の無い町である。地下水を生活水として利用している。

平成25年1月には町やJAひがしかわも出資して「(株)大雪水源保全センター」を設立し、水ボトルの生産を開始した。

大雪旭岳源水は、

- ・環境省選定「平成の名水百選」(平成20年6月)。
- ・特許庁「地域団体商標登録」(平成25年4月)。
- ・2016モンドセレクション・ワールドセレクション最高金賞受賞。

#### (2) 自然の中で育む産業

##### ◎農業

冷涼な気候、大雪山の清流、肥沃な土壌を活かした道内屈指の米どころである。

他に施設野菜、高原野菜なども生産している。

- ・「東川米」について

特許庁「地域団体商標登録」※平成24年5月に登録された。

- ・「炊くだけ御膳」について

東川米・ゆめぴりか（約3合）と、ミネラルウォーター「大雪旭岳源水」500mlをセットにした商品。おいしいご飯が手軽に炊ける。

### ◎商業

- ・それぞれの店の特徴を表現したオリジナルの木彫看板は町のぬくもりを感じさせる。
- ・東川米で作られたシフォンケーキ、米粉パンや手づくりの味噌、豆腐が人気。
- ・道の駅ひがしかわ「道草館」でも販売している。

### ◎工業

- ・木工業が盛んな町で、多くの家具職人や木工クラフトマンが芸術性の高い家具やクラフトを生産している。
- ・全国的に名高い旭川家具の生産全体に占める約30%が東川町で生産されている。
- ・東川町に移住し創作活動とともに喫茶店やギャラリー、工房などを開いている。

### ◎観光

- ・大雪山国立公園の入口の町であり、大雪山連峰の主峰「旭岳」（標高2,291m）と、北海道一の落差を誇る「羽衣の滝」を有している。
- ・旭岳温泉と天人峡温泉があり、13の温泉宿を有している。
- ・これらを訪れる観光客は年間100万人に達している。

## (3) 定住移住促進政策

### ◎景観住宅建築支援事業（H18～）

東川風住宅設計指針の基準を満たす住宅を新築する場合に、カーポート、物置等の付属建築物建設費に対して補助する。指定区画と指定区域外で補助額が異なる。

- ・指定区画は、町内業者施工で事業費の二分の一以内、上限50万円の補助。
- ・指定区画外は、町内業者の木製家具購入に対しても補助あり。事業費の二分の一以内で上限20万円の補助。
- ・支援事業実績は平成18年から平成27年まで合計95棟。平成27年は8棟。

### ◎新規起業家への支援事業（H15～）

企業が新たに投資し、町内にて指定事業場に掲げる業を開始する場合に補助する。

- ・土地、家屋、設備等の固定資産の取得及び改修等に要した費用の3分の1以内で、1事業者に対して100万円を上限に補助。
- ・起業家支援実績は平成15年から平成27年まで合計80件。

### ◎民間賃貸住宅建築支援事業（H25～H26）

優れた企画力・技術力等の総合力を備えた民間企業の創意工夫により、優れた民間賃貸住宅の供給を図ること目的に建築費に補助した。

### ◎きた住まいる建設推進事業補助金（H26～）

住宅本体の面積が100㎡以上で、東川風住宅設計指針に定める審査基準を満たした、北海道が定める「きた住まいる」に登録された戸建専用住宅を建設する人に補助する。

- ・事業費の二分の一以内で上限200万円の補助。
- ・事業実績は平成26年6件、平成27年17件。

### ◎二世帯居住推進事業補助金（H26～）

親または子が町外から転入して自ら居住用の住宅を町内に新築または、増・改築（または二世帯住宅を新築）する方で、要綱に定める要件に該当する場合に補助。

- ・住宅本体の面積が100㎡以上で、東川風住宅設計指針に定める審査基準を満たすこと。
- ・事業費の2分の1以内で上限100万円の補助をする。
- ・事業実績は平成26年、平成27年共に1件。

### ◎薪ストーブ等設備補助金（H26～）

住宅に薪ストーブ、木質ブリケットストーブ、木質ペレットストーブを設置する方に補助する。

- ・事業費の二分の一以内で上限50万円の補助。
- ・事業実績は平成26年21件、平成27年14件。

### ◎高齢者世帯住宅リフォーム支援事業補助金（H27～）

交付申請時に65歳以上の高齢者が居住している住宅のリフォームを行う方に補助。ただし高齢者が今後も継続して居住する場合。

- ・事業費の二分の一以内で上限50万円の補助。
- ・事業実績は平成27年36件。

## 質 疑

### ■移住・定住事業について

問1：どのような方が移住されてきますか。就業先はどのような職業でしょうか。

答) : 道内の方が多い。道外からの移住は全体の10%程度。移住者全体の15%程度が外国籍の方である。旭川市に勤務する方が多い。職業はアートデザイナーなど。

問2 : 貴町では移住された方や定住されている方への支援事業が多くありますが、どのような事業が活用されていますか。また移住の決め手となる施策はどのようなものでしょうか。

答) : 一つの取組ではなく、様々な取組により、町の魅力で住んでみたいと思う人が増えたと思う。

平成15年から平成17年と平成25年と平成26年にアパート支援を行った。平成15年からの3年間は間取りに関係なく1戸当たり180万円の補助、3年間で25棟130戸が建設された。平成25年と平成26年は単身者向けアパートの補助を行い、事業費の4分の1を補助した。2年間で6棟49戸が建設された。他に景観に配慮した住宅建築等に補助している。

問3 : おしゃれなカフェが数多く開店しているとお聞きしましたが、移住者の方が経営されているのでしょうか。また経営にあたり町からの補助金等はありませんか。

答) : 新規起業には設備投資に対して3分の1以内、上限100万円の補助がある。移住者は補助金を活用して、カフェ、雑貨、クラフト関係、パン屋等を現在80店舗ほど起業している。

問4 : 貴町は木工の町として有名ですが、技術を継承していくための取組はされていますか。

答) : 旧東川小学校を改装した「東川町文化芸術交流センター」が平成28年10月15日(土)からグランドオープンし、ギャラリーに織田コレクションの世界の椅子1,400から1,500点を展示する。また東川町の木工作家、故・大田久幸の作品も展示、他に木のおもちゃも展示している。また君の椅子プロジェクトでは、「新しい町民」となった子どもたちに「生まれてくれてありがとう」の思いを込めて居場所の象徴としての「椅子」を贈っている。子どもたちの元に届いた小さな椅子は日々の暮らしにそっと寄り添いながら、たくさんの思い出をその身に刻んでいく。

問5 : 貴町は地下水に大変恵まれています。地下水を活かした町おこしなどはお考えでしょうか。

答)：平成25年1月に、コープさっぽろ・東川町・JAひがしかわが出資して「(株)大雪水源保全センター」を設立し、水ボトルの生産稼働を開始した。

## 6 茅野市での展開の可能性

ふるさと納税を株主制度とした発想が職員から出たものだとお聞きし、職員の仕事に対する熱意と真剣さを感じた。また町長は、「ものを考えるときに、既成観念や先入観をもたない。これは出来ない、これはダメだと言う気持ちをもってしまうと出来なくなってしまう。出来るという姿勢でやって行くことが大切ではないか。」とお話しされた。行政のトップの考えに共感をし、これが原点ではないかと改めて認識した。茅野市の職員も頑張っていることは重々承知しているが、再認識することも良いと考える。

ふるさと納税制度を「株主制度」としたことは、財政をプラスさせるのではなく、町外の方、都市住人の方とのつながり、交流を主体に行っている。人とのつながり、交流をすることで、町を知ってもらうことにつなげている。

茅野市には国宝土偶2体がある。誰もが(考古学に興味がなくとも)見に来る方策を考えるべきと感ずる。ここで観光を活かしたまちづくり、広域連携、産業間連携、地域連携の取組が始まった。大いに期待したい。



東川町視察(東川町役場)(高橋東川町議会議長ご挨拶)



東川町視察(東川町役場)(伊藤委員長挨拶)



東川町視察(東川町役場)